

世界学生湖沼会議2008提言書（仮訳）

2008年11月、世界10カ国の学生が、現在の人間と自然環境との関係を議論し、将来にわたる自然との調和を図るため、日本の滋賀県に集結した。

この提言書は世界学生湖沼会議2008に参加した各国学生の共通認識として発表する。

1. 湖沼と教育

環境教育とは、室内や野外で行われ、自然環境に対する意識や、環境との相互作用、自然管理における人々の役割や責任感を高めることを目的としたものである。環境教育は経験に基づき、学校、メディア、家族を通して毎日の生活の中で行われるべきである。

1-1 湖沼環境の根本的重要性

湖沼は貴重な生態系である。湖沼は飲料水や食料、洪水調整、栄養分の再循環、持続可能な生物多様性を提供し、また、環境変化の指標として機能している。さらに、湖沼は文化や娯楽、宗教、そして経済といった多面的な価値も持っている。しかし、湖沼は人間活動の影響を受けやすく、今日多くの湖沼環境が悪化している。水はあらゆる生命の基盤であるため、私達はこの貴重な資源を守らなければならない。

1-2 環境教育の必要性

環境教育は、それ自身が固有の価値を有していると同時に、人間と自然の持続可能な共生を実現させる効果的な方法である。我々個々人が、湖沼の重要性を理解し、これらの生態系の複雑性とすばらしさを実感し、適切に自然の価値を評価することで初めて、私達は今日の湖沼環境問題に対して本質的に取り組んでいくことができる。そしてそのために、世界中の研究者、教育者、学生などの人々は、あらゆる自然への感謝と、環境を守る意欲を持てるような教育の場を提供しなければならない。

1-3 各国の環境教育

環境問題に対する関心が高まっている一方、世界中の環境教育の中には、効力が十分でないものが存在する。環境教育が量・質ともに不十分、もしくは、環境教育自体が実施されていない国もある。

1-4 環境教育の有効性と問題点

世界には、専門的な研究に基づく科学的な知識と、地域に根付く人々の経験から来る知識があり、多くの教育者や研究者が生涯を通してその知識の共有に取り組んでいる。教育が熱心に行われているところでは、地域の問題に目が向けられ、市民活動が促進されている。しかし、国際的に見ても、環境に対する意識は十分ではない。発展途上国の中には、環境教育が全く実施されていないところもある。また、先進国の中にも、公的な教育課程で環境教育を実施している国はごくわずかしかない。そして、環境教育のほとんどがNGO任せになってしまっているのである。自国の環境教育を改善している国がある一方、環境についての学習や経験がないまま大人になってしまう人が数多くいるのも現状である。

1-5 将来における理想の教育

理想的な環境教育のシステムは、国籍や経済状況等に関係なく、全ての人が生涯を通してその環境教育を受けられるというものである。また、この理想的な教育システムは、楽しくかつ興味深く、幅広い年齢層の人や多様な教育においても受け入れられ、自然体験学習の機会も提供するものである。この理想とする環境教育において重要なことは、自然環境を保全しようと積極的に行動するよう、人々が感化されるということである。このシステムでは、学生や教育者、研究者、メディア、そしてNGOや政府といったネットワークによって、環境問題に関する話題が日々の生活に提供される。この環境教育のシステムには財政的な補助が必要不可欠であるが、持続可能な世界の恩恵は、お金では買えないものである。

1-6 次世代に向けて

最も重要なことは、自然環境の仕組みについて人々の理解が深まり、環境保全の重要性が明示され、そして環境保護に向けての取り組みが促進される役割を環境教育が果たさなければならないということである。国際協力と確かな科学に基づいた環境教育により、自然と人間の調和のとれた素晴らしい共生関係が創造されるのである。

2. 湖沼と共生

湖沼とは、完全または部分的に独立した水系であり、常に湛水量が確認できる水界生態系であると同時に、集水域だけでなく地球環境とも相互作用するものを指す。

2-1 湖沼環境をめぐる問題

世界中で多くの湖沼が、地域及び世界的な規模で、共通の問題を抱えている。主な問題として、水質汚濁、外来種の侵入、淡水資源の過剰利用、干拓、富栄養化、気候変動による影響が挙げられる。

2-2 悪化する湖沼環境

湖沼環境の悪化は結果として、生物多様性、生態系の機能、湖沼としての資源価値の低下を招く。

2-3 湖沼環境悪化の理由

湖沼環境は人口増加や産業化に伴い常に変化している。加えて、環境に対する配慮や地域住民への環境教育の欠如及び行政による湖沼管理の失敗が湖沼環境の悪化に拍車をかけている。

2-4 湖沼管理の長期的目標

持続可能な発展を実現することが長期的目標である。このためには適切な水質を維持し、湖沼のあるべき姿を守ること、文化的もしくは審美的価値を保ち、それと同時に湖沼流域の経済的発展を実現することが必要となる。

2-5 湖沼環境の状態改善に向けてのステップ

私達は以下のように5つのステップを提案する：

1. 地域住民、研究者、企業、NGO、行政、そして国際組織は相互理解の場を設けるべきである。
2. そうして設けられた場において、湖沼管理の必要性や湖沼の状態を我々は議論すべきである。
3. 現在施行している管理方法の持続性を分析・検証すべきである。適切でない場合は、問題点と原因を我々は共に追究しなければならない。
4. 私達はこれらの問題を解決する道を見つけ、これらの解決策を共に実行していくべきである。
5. 解決策の実行後には、湖沼環境が改善されたかを確認するべきである。改善されていない場合は、管理方法を再度検討する必要がある。

2-6 次世代を担う私たちにできること

私達は、世界学生湖沼会議2008にて、湖沼管理のための「湖沼」の定義と5つのステップを策定した。この会議後、私達はこれらの見解を可能な限り多くの人に広め、2009年の世界湖沼会議でその成果を発表する。次世代を担う私たちにできることは、科学的知識を深め、湖沼管理のための5つのステップを実行するための経済的支援を確保することである。